

提案 18 道沿いに花を植える

さんぽコースなどの道沿いに、花を植えていきましょう。水やりなどは希望者で交代で行うなど、管理方法も同時に決めておきましょう。

- ▶ 効果
- 景観の向上
 - 地域のイメージアップ

事例 小高はなみちプロジェクト

花を植える植木鉢の代わりに、写真のような大きなプランターを利用することも考えられます。このプランターは、現在まちなかをはじめ、小高の各所で設置が進んでいます。詳細は小高復興デザインセンターにお問い合わせください。



提案 19 景観植物を植える

多くの人が行き交う道から見える土地があれば、ひまわりなどの景観植物を植えて地域を彩りましょう。迷路を作ってイベントを行う、といったアイデアも考えられます。

- ▶ 効果
- 景観の向上
 - 土地の荒廃化の防止

事例 ひまわりで地域に活気を！ 大富行政区ひまわり迷路プロジェクト

行政区長さんから集落センターそばの遊休耕作地にひまわりの種をまいたので、その活用として迷路を作ってほしいと小高復興デザインセンターに依頼があり、迷路の設計と作成を支援しました。2017年7月下旬～8月中旬にオープンし、簡単なイベントも行政区主催で実施しました。



提案 20 たまり場を作る

みんなが気軽に集まることのできる場所を作りましょう。公会堂(提案11参照)・集落センター以外にも、眺めの良いところや、神社のそばなども候補地となります。ベンチや看板を作ったり、花を植えたりして休憩中も楽しめる場所になるとさらに魅力が向上するでしょう。

- ▶ 効果
- さんぽ中の休憩場所
 - みんなで集まれる場所の創出

事例 花見ふれあい広場 大井行政区

大井行政区に設置された花見ふれあい広場では、桜の植樹のほかに手作りの東屋や花壇が整備されています。水道や電気も通されていて、みんなが集まることのできる空間となっています。



提案 21 見どころを作る

さんぽ道の途中といった地域の各所に、手作りのモニュメントなどを置いて、見どころとなる場所を作りましょう。みんなで作った新しいモノやコトを通じて、地域に新たな魅力をもたらすことができるかもしれません。

- ▶ 効果
- さんぽ道の魅力向上
 - 話題創出

事例 地域ぐるみでアートの祭典を

宮城県石巻市で2017年に開催された Reborn-Art Festival では、市内及び牡鹿半島の様々な場所でアーティストの作品が展示されました。



場所に応じた 使い方・管理をする

震災前に比べ、小高に住む人は大きく減りました。人の管理が行き届かない土地はこれから荒廃が進む恐れがありますが、行政区内全ての土地を、現在小高に住む人や小高に通う人だけで草刈りなどの維持管理をしていくことは難しく、少ない人手で工面していけるよう、予め場所に応じた使い方、管理の方法を決めておきましょう。また、地域の土地の問題は、個人での解決は困難です。行政区の中で話し合いの場を設けることを通じて、次につながるアイデアが出てくるかもしれません。



提案

22

地域の土地のあり方を地図にする

行政区には、人が少なくなった中で今も多くの人通りがある場所や、逆に家もなく、人も全く通らない場所など、様々な場所があります。行政区の今の地図を作ることに加え（提案3参照）、どの場所をみんなで管理すべきか、これからの土地のあり方をみんなで話し合い、それを地図にしてみましょう。

▶ 効果

- 地域の魅力や課題を可視化
- 土地管理の方針の共有

地図作成の例

地図のイメージ図



現状の土地利用の記入

- 営農している土地
- 行政が管理する土地
- 太陽光パネル設置の土地
- 景観植物が植えてある土地

今後の方針の記入

- 荒廃化させない土地
＝人の生活圏に近い土地、地区にとって意味のある土地など
- 現状は管理しない土地
＝人の生活圏から離れ、今後利用される可能性の少ない土地

土地の意向調査（提案2参照）を行い、その結果を踏まえながら地図を作っていくことも重要です。

被覆植物などを植えて荒廃化を防ぐ

雑草の繁殖を抑える効果を持つ被覆植物を植えたり、唐辛子など鳥獣被害の対策に鳥獣が忌み嫌う作物を育てたりして、土地の荒廃化を防ぎ、草刈りなどの土地の維持管理や鳥獣害対策に要する時間や人手を削減しましょう。唐辛子に関しては、小高ではすでに唐辛子を商品化する試みもあり、その生産源としての利用も考えられます。このようにして上記の手間を減らしていくことによって、みんなで新しい取り組みに挑戦できる可能性を増やせるかもしれません。

▶ 効果

- 土地の荒廃化の防止
- 管理削減によるその他の実践の取り組み時間と人手の創出



被覆植物の例です。左上がミント、右上がアジュガ、左下がローズマリーです。

事例 唐辛子を小高の新しい名産に！

小高工房では、七味（「小高一味」）や、ラー油を作る試みを行っています。この取り組みには誰でも参加できるため、これから的小高の新しい名産品として、行政区の皆さんで唐辛子作りを始めてみませんか。



土地の維持管理組織を作る

土地に花を植えたり、維持管理する場所を決めた後は、実際に管理する立場の人を決める必要があります。人数が少ない現状をふまえると個人での対処は困難なため、行政区独自の土地管理組織を作ることが重要ではないでしょうか。行政区単体で組織を設立するのが難しい場合は、隣接した行政区と協力して一つの組織を立ち上げる、といった工夫も必要かもしれません。

▶ 効果

- 地域の土地を管理していく持続的な仕組みの制定

事例 話し合いを経て管理組織を設立 浦尻行政区

浦尻行政区では、小高復興デザインセンターとの共催で、これからの土地利用のあり方を含め、行政区の未来を考える検討会を2017年5月から12月にかけて浦尻公会堂にて開催しました。話し合いを経て、まず皆さんの土地に関する意向を知ることが大事だ、ということに至り、意向調査（提案2参照）を実施しました。結果を踏まえて、行政区独自の土地の維持管理組織が設立されました。このように、地域の土地に関して話し合う機会を持てば、行政区全体で前に進むことができるかもしれません。



事例 歩いて行ける月1地域サロン 浦尻さわやかサロン

2017年夏頃より、民生委員さんや地区のお母様方から、「帰ってきた人たちが家に閉じこもってばかりでなく、みんなが集まるサロンをつくりたい!」という声があがってきました。そこに、強力な助っ人となる市の保健師さんも加わって、一緒にサロン立上げの準備が始まりました。毎月第三金曜日10時～12時に浦尻公会堂でサロンは開催され、体操・血圧測定・お茶っこ・健康講話・お手玉ゲームなど開催され15名程度参加されています。民生委員さんがチラシを作成して開催の呼びかけをされており、市の保健師さんは最初の三回の慣れるまでサロン運営のお手伝いをされています。



↑ 2018年1月9日、初回サロンの様子

第3章

未来に向けて

それぞれの行政区で、
また穏やかな暮らしが営まれるようになったら、
次は、少し先の未来に向けた地域づくりに
取り組むのはいかがでしょうか。
高齢化や人口減少は常なる課題ですが、
新たな地域づくりが
新たなつながりを生むことでしょう。



複数の行政区で 合同サロンを開催！



一つのサロンでは催し物が偏ります。得意なサロンを開いて、周辺の住民の方もみんなで楽しめば、新たな知り合いができたり、開催負担が減ったりするかもしれません。



各行政区のさんぽ道をつなげよう！



自分の行政区内部の日常的なさんぽ道も、隣とつなげば非日常の風景を発見するかもしれません。ちなみに青森県八戸市から福島県相馬市松川浦までは環境省による『みちのく潮風トレイル』でつながっています。



使っていない公共施設の 使い方を考えてみよう！



今は使っていない公共施設を使って、小高の魅力を発信したり、帰還していない方が休んだりなど、うまいアイデアを考えてみませんか。全国的にも公共施設の空き問題が発生していますが、廃校が美しいレストランとして蘇るなど、驚くような事例があります。



農産物を通じてまちなかと 集落のつながりをつくろう！

集落部で蚕を飼って、まちなかで糸や布にして売ること、小高は栄えました。現代版で考えるとしたら何でしょうか。今は、小高というまちに外の注目も集まっています。空豆をつくって豆板醤、山羊を飼って肉や毛糸、など小高の名物にきちんと客がつくチャンスかもしれません。集落とまちなかが両方ある、強みが発揮できます。



復興を学ぶ 探訪コースを作ろう！

近世後期の飢饉でも、人口が半分になった行政区があったと聞きます。そこからも、ため池の建設や水路の設置、遠方からの商売の受け入れなど、積極的な復興を図ってきたのが、歴史の町、小高です。地震による津波や放射能汚染などの災害、さらには高齢化や人口激減などの弱みを、私たちがどう乗り越えるか、次世代にも感じてもらえる、学びの場をつくりませんか。



製作協力

小高・地域づくり手帖の製作にあたっては、
以下の皆さまにご協力いただきました。
改めまして、感謝申し上げます。

- 高島敬一郎様、高島絹代様
- まなびあい南相馬の皆さま
- 小高の歩みたんがく会の皆さま
- 南相馬市文化財課の皆さま
- 金出ミチル様、和田裕子様
- 村上田植踊り保存会 西内芳幸様
- 大富行政区 半杭一成様
- 上浦行政区および上浦神楽保存会の皆さま
- さくらサロンの皆さま
- 小屋木行政区 絆の楽園の皆さま
- 小谷行政区 小谷スポーツサークルの皆さま
- 川房行政区の皆さま
- 小高はなみちプロジェクトチーム 小林友子様
- 大富行政区 かけの森サロンの皆さま
- おだか千本桜プロジェクト 佐藤宏光様
- 小高公房 広畑裕子様
- 浦尻行政区 浦尻未来検討会の皆さま
- 浦尻行政区 浦尻さわやかサロンの皆さま

(本編掲載順)

小高・地域づくり手帖

つながりの再生に向けて

(第1版)

2018年3月31日発行

製作：小高復興デザインセンター

〒979-2124

福島県南相馬市小高区本町2丁目78番地
旧社協会館

TEL：0244-44-5100

Web：<http://td.t.u-tokyo.ac.jp/odaka/>